

研究主題「対象とのかかわりを深め、『自分への気付き』をはぐくむ学習指導の工夫」

東京都教職員研修センター研修部現職研修課
練馬区立開進第三小学校 教諭 根本 裕美

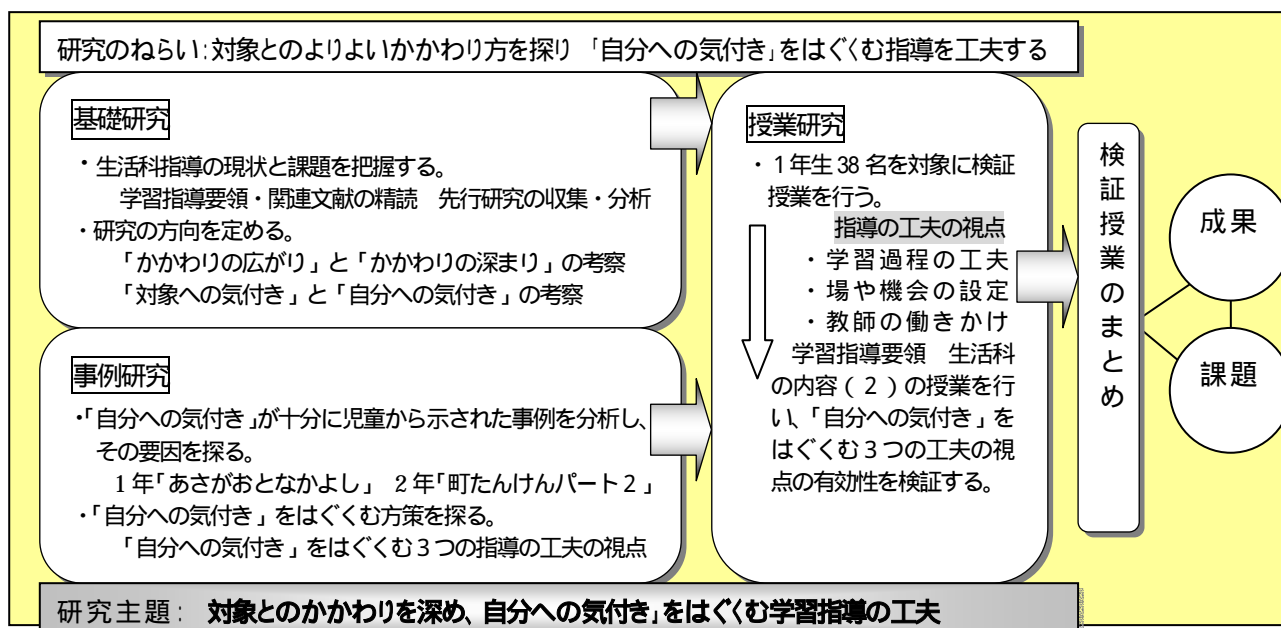
研究のねらい

生活科は、児童が具体的な活動や体験の中で、対象に能動的に働きかけたり受容したりして生き生きとかかわり、学習を展開することを重視する教科である。さらに、そのかかわりから得た気付きを自分自身や自分の生活に生かす、つまり「自分への気付き」をはぐくむことを目指す教科である。対象と十分かかわる中で気付きを深め、自分自身や自分の生活を変容させる児童の姿こそが生活科で育てたい児童の姿である。

しかし、活動し、対象についての知識はもっても、対象への気付きにとどまり、自分への気付きにまでは至らない場合も少なくない。教師が、「かかわり」や「気付き」の価値について十分認識して学習指導を行うかどうかによって、児童が生活科で身に付けることができる資質や能力に大きな差が出てしまう。

本研究では、対象と児童とのよりよいかかわり方を探るとともに、自分自身や自分の生活への気付きをはぐくむような学習指導を工夫したいと考え、上記の研究主題を設定した。

研究の内容と方法



研究の結果と考察

1 基礎研究

(1) 研究の背景

国立教育政策研究所の「全国かつ総合的な学力調査に係る研究指定校事業の概要(生活科)」(平成15~16年度調査)及び日本生活科・総合的学習教育学会の「生活科で育った学力についての調査研究」(平成15年度調査 生活科を学んだ小学校3年生・6年生、中学校2年生、高等学校3年生の児童・生徒2544名対象)から

対象とのかかわりの深まりにより、生活科の8つの内容の実現状況には差がみられること

対象への気付きと比べて自分への気付きに関する実践が少ないことが課題であること
気付きの質を高める指導の工夫が求められていること、特に内容(2)「家庭と生活」に関して「心に残る活動」となるような授業の改善が求められていること
が分かった。そこで、検証授業では内容(2)に基づいた学習活動を取り上げることにした。

(2) 研究主題についての基本的な考え方

生活科における「かかわり」

【かかわり】本研究では、「児童が学習の対象と出会い、見たり、聞いたり、触れ合ったり、遊んだり、調べたりし、活動を繰り返し行うことにより、思いや願いがふくらみ、対象が児童にとって愛着のある新たな価値をもつものへと変化する過程及びそこから生まれる結果」ととらえた。

児童が学習の対象に対して新たな視点をもったり別の方法でアプローチしたりすることで、かかわりを「広げる」ことができる。一方、対象について繰り返し考えたり没頭したりすることで、かかわりを「深める」ことができる。かかわりを「広げる」活動と「深める」活動の重点の置き方は、内容や取り上げる教材の特質によって変わってくるものであると考える。

生活科における「気付き」

【気付き】本研究では、「学習の対象に直接かかわる活動や体験の中で、対象や自分自身について児童が生み出す心の働き。多くの場合は、児童にとって無自覚であり、直感的・感覚的なとらえ方であるが、やがて明確な認識や知識につながっていくもの」ととらえた。

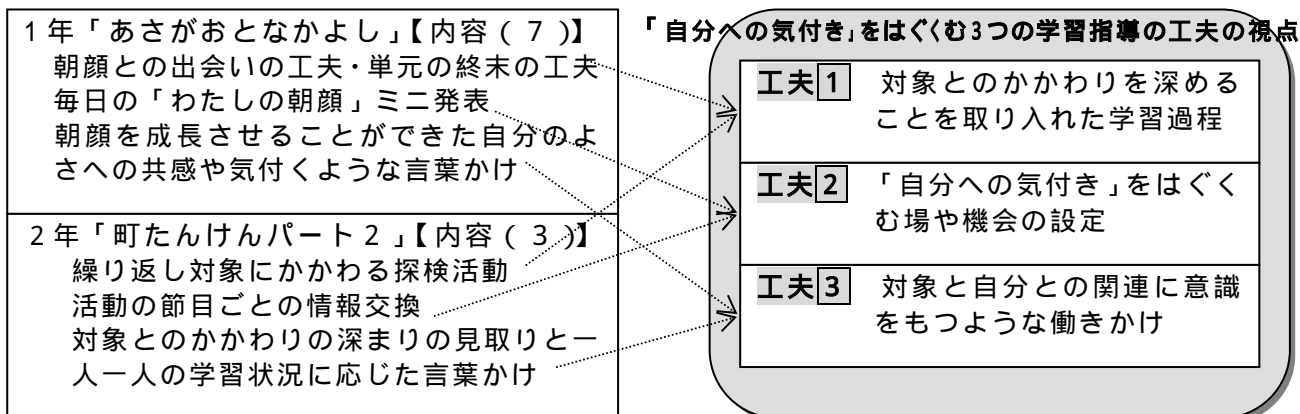
児童が学習の対象と繰り返しかかわり、対象の特徴や特性、よさや楽しさなどを見出すのが「対象への気付き」である。一方、対象と自分を比較したり、関連付けたりする中で、自分のよさや得意なこと、自分の心身の成長などを見出すのが「自分への気付き」であると考える。

「対象への気付き」から「自分への気付き」へ

学習の対象とのかかわりを「広げる」中で、児童は視野が広がり、対象のいろいろな面が見え、様々な「対象への気付き」が生まれる。さらに「対象への気付き」を、自分自身や自分の生活に照らし合わせたり比較したりすることで、「自分への気付き」も生まれる。一方、対象とのかかわりを「深める」ことで、児童は、対象にこだわりや愛着をもつ。そして対象のよさや価値を自分との関連でとらえることができるようになり「自分への気付き」がはぐくまれると考える。

2 事例研究

以下の2つの事例から、児童が「自分への気付き」を深めた要因を分析し、得られた学習指導の工夫の視点を授業の中で検証した。



3 授業研究

基礎研究、事例研究で得られた「自分への気付きをはぐくむ学習指導の工夫の視点」の有効性について授業研究を行い検証した。

対象	練馬区立開進第三小学校 1年1組38名
時期	1年2学期 11~12月(7時間扱い)
単元名	「わたしとかぞく」【学習指導要領 内容(2)「家庭と生活」】
目標	家族のしていることや仕事など家庭生活を見つめる活動を通して、家庭の楽しさやそれを支えている家族の思い、その中で見守られて成長してきた自分などに気付き、喜びや感謝の気持ちをもつとともに、自分のできることをこれからの生活の中で進んでやっていこうという意欲をもつ。

(1) 本単元における「自分への気付き」をはぐくむ3つの学習指導の工夫の視点

<p>工夫1 対象とのかかわりを深めることを取り入れた学習過程</p>	<p>本単元の学習の対象は「家族」である。ともに生活していても、見えていない部分が多い。そこで、対象と繰り返しかかわり、「対象への気付き」を広げ、深めるとともに「自分への気付き」をはぐくむために、本単元の学習過程を以下のように設定した。</p> <p>↓</p> <p>「出会う」(家族の仕事や家族の楽しみを、思い出したり考えたりする) 「見つめる」(見たり聞いたりする中で、家族について改めて見つめる) 「関連付ける」(家族の喜ぶことと自分のできることを関連付け、考える) 「振り返る」(家族のために行ったことを振り返り、自分の生活を考える)</p>
<p>工夫2 「自分への気付き」をはぐくむ場や機会の設定</p>	<p>「自分への気付き」は、児童自身でも気付かない場合もある。例えば「上手にできるようになった」と思っても、児童の心の中にあるだけではそのまま終わってしまうこともある。他からの承認や賞賛、他との比較などの場や機会があると自分のよさや成長、改善した方がよい点などに気付く。本単元では、情報交換、報告会、家族からの手紙を読む活動を取り入れた。</p>
<p>工夫3 対象と自分との関連に意識をもつような働きかけ</p>	<p>児童が、家族と自分との関連に意識をもつような働きかけを意識的に行う。特に、自分のよさやできることなど「自分への気付き」をはぐくむ言葉かけを工夫する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>言葉かけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ はなんていっているかな ・ どうしてそう考えたの </div>

(2) 「自分への気付き」をはぐくむ3つの学習指導の工夫の視点を取り入れた学習過程(抜粋)

かかわりの深まり	児童の主な活動 ()は時数	本単元で期待する気付き 対象 自分	留意点 自分への気付きをはぐくむ支援 評価 関心・意欲・態度 (関) 思考・表現 (思) 気付き (気)
<p>工夫1</p> <p>↓ 出会う</p> <p>↓ 見つめる</p> <p>↓ 関連付ける</p> <p>↓ 振り返る</p>	<p>わたしのかぞく(3)</p> <p>家族といたり、一緒にしたりしたことで楽しかったことを思い出す。(1/2) 家族のしていることについて考える。(1/2) 家族について調べたことをまとめる。(2)</p>	<p>家族で過ごす楽しさ 家族が自分にしてきていること 家族一人一人の役割やよさ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族とは親子、兄弟姉妹など限定するものでなく遠くに住んでいる場合も含め、児童にとって「かけがえのないもの」「児童の思っている家族」ととらえた。 ・ 事前に活動のねらいや内容を保護者にお話しする。家族の楽しみや喜び、仕事などについて調べたり聞いたりしようとしている。(関) 家族の楽しみや喜び、仕事などについて調べたり聞いたりしたことを自分なりにまとめ表現する。(思) 家族について調べる活動を通して、家庭を支える仕事、家族の楽しみや喜びなどに気付いている。(気)
	<p>わたしのかぞく(3)</p> <p>家族が喜んだり、楽しくなったりするようなことを考える。(1) 「かぞくにここに大作戦」の準備をする。(2)</p>	<p>家族のために自分ができること 家族の役に立つ自分のよさ 家族の喜ぶこと</p>	<p>家族の一人一人に目を向けられるような言葉かけをする。絵本なども活用する。できそうな家の仕事、家族一緒に楽しむこと、家族のさんが喜ぶこと等児童がいろいろな考えをもてるように例を示し、促す。工夫3 グループで情報交換を行い、いろいろな方法で自分も家族に働きかけができることに気付くことができるようにする。工夫3</p>
	<p>みんなにありがとう(1)</p> <p>《自分の考えた「かぞくにここに大作戦」を行う》 「かぞくにここに大作戦」の報告会をする。(1)</p>	<p>自分のできること</p>	<p>家族のために自分ができることを考え、意欲をもって取り組もうとしている。(関) 家族のために何ができたか、家族からどんな感想を得られたかの報告会を設け、達成感や自己有用感をもてるようにする。工夫2 「家族からの手紙」を保護者に依頼し、報告会の最後に見ることができるよう準備する。工夫2 自分も家庭の中でできることがあり、できることは自分で行うことが大切だと気付いている。(気)</p>

(3) 児童の変容と「自分への気付き」をはぐくむ学習指導の工夫

本単元に入る前の児童の家族に対する認識は、表面的にとらえる傾向にあった。家族についてのコメントには、外見的な言葉(「背が高い」など)や家庭内の仕事に関する言葉(「洗濯を

する」など)等生活の中で自分の見ている姿だけを簡単な言葉で伝える児童がほとんどであった。終了後は、「音楽を鳴らしてあげたらにこにこ顔になる」「家族のことが大好き」「みんなのためにご飯やおかずを一生懸命作る」「肩もみをすると喜んでくれる」などかかわりの深まりを示すものが多かった。また、自分が家族のためにできることを回答する児童も増え、家族とのかかわりの中で自分への気付きを深める姿が見られるようになった。これらの児童の変容に関して、3つの学習指導の工夫のうち、工夫1及び2は児童全体への指導に関して有効であった。一方、下記の例に示したように、個々の児童に対しては工夫3が有効であった。

<p>工夫1 かかわりを深めることを取り入れた学習過程 成果: かかわりの深まりと「気付き」について考察し整理しながら支援や評価を行うことができた。 課題: 年間計画との関連を十分に図る必要がある。</p>	<p>工夫2 「自分への気付き」をはぐくむ場や機会の設定 成果: 特に家族からの手紙を読む活動は児童に自分のよさ等を気付かせる上で効果的だった。 課題: 環境構成を一層工夫する必要がある。</p>
<p>工夫3 自分との関連に意識をもつような教師の働きかけ 成果: 「自分への気付き」を深めるように意識して言葉かけを行うことで、児童が、家庭における自分の存在やよさ、成長など様々な「自分への気付き」をもつことができた。 課題: 児童一人一人の気付きの深まりに応じた言葉かけを一層工夫する必要がある。</p>	

かかわりの深まり	A 児の変容	自分への気付き
出会う (家族の仕事や楽しみを考える)	・「わたしが学校にいる時お母さんが何してるかなんて考えなかった。」	自分との比較
見つめる (家族の仕事や楽しみについて調べまとめる)	・「わたしは今まであまりかんがえていなかったけど、おかあさんやおとうさんはわたしのことをかんがえていたんだね。」	自分との比較
関連付ける (「かぞくににこにこ大作戦」の内容を考える)	・「かぞくのことをべんきょうして、もっとお手つだいをしたくなりました。うれしいことをしたくなりました。」	自分のできること
整理する 振り返る (報告会で大作戦を振り返る)	・大作戦は、お皿ふき、ごみだし、料理の盛り付け、かたもみ	
	・「こころをこめて作ったからありがとうといわれてとってもうれしかったです。これからもこころをこめてお手伝いをしたいです。」	自分のやりたいこと

「難しかった。」と最後につぶやくのでどうしてそう思ったのか尋ねた。(問い返す)

発言を聞き、「家族の気持ちをよく考えられたね。」とほめた。(認め賞賛する)

「どうやってやるの。」「どんな気持ちでやるの。」と聞いたところ、しばらく考えていたが、「心をこめて。」という言葉が返ってきた。(問いかけ引き出す)

A児はいわゆる「しっかりした」子だが、家族のことについてはあまり話をしなかった。しかし、家族の楽しみについて聞き取りをする中で、「家族がいつも自分のことを考えてくれている」ということに気付いた。「かぞくににこにこ大作戦」では楽しんで家族全員の喜ぶことを考え、実行することができた。

かかわりの深まり	B 児の変容	自分への気付き
出会う (家族の仕事や楽しみを考える)	・話はにこにこしながら聞いているが特に発言はない。	
見つめる (家族の仕事や楽しみについて調べまとめる)	・「おかあさんはみんなのためにしょつきをたくさんあらっていることがわかった。」	自分との比較
関連付ける (「かぞくににこにこ大作戦」の内容を考える)	・大作戦は、お風呂あらい、お皿あらい、ママに「大好き」と言う、折り紙のお花をあげる	自分のできること
整理する 振り返る (報告会で大作戦を振り返る)	・「はじめてのだいさくせん、自分の心では大せいこうとおもいました。また、だいさくせんのパート2をやりたいです。」	自分のよさ・自分のやりたいこと

「みんなって誰かな。」と聞いたところ「子ども。それから家族。」という言葉が返ってきたので「そうだね。うちの仕事を家族のためにしてくれているのね。」と話した。(問いかけ引き出す 考えを確かめる)

お手伝いを書いた後、考えていたので「にこにこする顔をおもいうかべて考えてごらん。」と促したところ、思いついたことをどんどんカードに書き始めたので具体的な内容が多いことをほめた。(促す 賞賛する)

B児は話をよく聞き、よく考える子である。しかし家族についての見方は「大人」という言葉にとどまっていた。「家族のために仕事をしている」ということが分かるとともに、自分も家族のためにできることがあると気付き、進んで取り組んだ。

今後の課題

- 「自分への気付き」をはぐくむための教師の支援や働きかけを一層工夫する。
- かかわりを「広げる」「深める」活動と「自分への気付き」の関連を他の単元でも検証する。